



## 平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年11月14日

上場会社名 株式会社ジー・テイスト

上場取引所 東

コード番号 2694 URL <http://www.g-taste.co.jp>

代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)阿久津 貴史

問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長

(氏名)稲角 好宣

TEL 052-910-1729

四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日

配当支払開始予定日

—

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	11,074	△12.2	△21	—	46	△72.9	△290	—
30年3月期第2四半期	12,614	△3.5	87	△44.2	170	9.1	△129	—

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 △290百万円(—%) 30年3月期第2四半期 △129百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	△1.52	—
30年3月期第2四半期	△0.68	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	23,591	9,185	38.7
30年3月期	20,666	9,535	46.0

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 9,129百万円 30年3月期 9,502百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	0.50	0.50
31年3月期	—	0.00			
31年3月期(予想)			—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,000	△9.3	330	△21.2	330	△38.6	△390	—	△2.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 3社 (社名)株式会社オーディンフーズ、株式会社タケモトフーズ、株式会社壁の穴

除外 1社 (社名)

なお、株式会社オーディンフーズは平成30年10月1日付で株式会社テンフォーに商号変更しております。

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

31年3月期2Q	197,051,738株	30年3月期	197,051,738株
31年3月期2Q	5,544,040株	30年3月期	5,710,489株
31年3月期2Q	191,384,907株	30年3月期2Q	191,341,507株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 平成31年3月期の期末配当予想につきましては、事業環境の先行きが不透明であることから現時点では未定とし、業績等を総合勘案いたしました上で速やかに開示するものいたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(追加情報)	10
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境に改善が見られ、景気は緩やかな回復基調となりましたが、個人消費の回復は足踏み状況にあり、先行き不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、人材不足による採用費等のコストの高騰や、消費者の節約志向の高まりに加えて、地震や台風、局部的豪雨などの自然災害などの影響もあり、先行きは依然として厳しい状況が続くことが懸念されております。

こうした中、当社グループでは、グループ全体としてQSCの強化を図り、さらに外食事業においては、安心、安全でおお客様にご満足頂ける商品提供への取り組み強化と併せ、ブランド力が高い業態への業態転換、新規出店やFC加盟開発の強化に努めてまいりました。

当社の主要外食業態の状況といたしましては、焼肉事業が前期に引き続き堅調に推移いたしました。現在積極的に展開しております国産牛焼肉食べ放題「肉匠坂井」は、平成30年9月末時点でフランチャイズの展開も合わせ25店舗となりました。また、10月には2店舗を出店し、11月以降につきましても現時点で5店舗の出店を予定しており、年内の30店舗体制を予定しております。今後も積極出店を継続させ、更におお客様にご満足を頂ける業態確立を目指していくことで、「焼肉屋さかい」とともに、焼肉事業を当社の主力事業として注力してまいります。

「平禄寿司」を中心とする寿司業態、「おむらいす亭」「長崎ちゃんめん」を中心とするファストカジュアル業態、「敦煌」を中心とするレストラン業態は、定期的な店舗リニューアル投資を着実にを行い、業績も安定的に推移いたしました。特に「平禄寿司」では、8月の多賀城西店を含む3店舗のリニューアル改装を行うとともに、まぐろ解体ショー等職人のいる当社ならではの企画の実施や、地域に密着した食材を提供し、競合店との差別化を図る活動を継続しておこなってまいりました。

また、前連結会計年度に不振だった居酒屋業態につきましては、未だ全体業績の回復にはいたっておらず、引き続き業態の見直しに全社一丸となって取り組んでまいります。特に当第2四半期連結累計期間において、トライアル業態の不振店舗閉鎖絞り込みに加え、「とりあえず吾平」「てんてけてん」等、郊外型居酒屋業態の不振店舗の閉店を14店舗実施した一方で、「ちゃんこ江戸沢」では両国総本店2店舗や、郊外型店舗を11月までに5店舗リニューアル改装するなど、積極的に業態改善のための投資を行ってまいりました。今後も不振店舗を放置することなく、積極的にスクラップアンドビルドを進めてまいります。

居酒屋業態の「村さ来」では創業45周年を迎え、長年のご愛顧に感謝をして、全国オリジナルメニュー対決「Mura-1グランプリ2018」を開催し、普段はそのお店でしか食べられない逸品を45周年の感謝を込めたサンキュー価格(390円)で提供した結果、多くのおお客様のご来店を頂くことができました。その他各業態においても同様に、長期にわたって地域のおお客様に愛される飲食店舗を作るべく、引き続き不断の努力を継続してまいります。

なお、7月には関西地区を中心に大型フードコートをはじめとする飲食店を7拠点展開している株式会社タケモトフーズを、9月には昭和28年の創業以来、和風パスタの先駆けとして知名度を誇る「壁の穴」をはじめとしたイタリアン業態等28店舗を展開する株式会社壁の穴をそれぞれ子会社化いたしました。これにより、今後一層、当社グループ内におけるシナジー効果が期待できるものと考えております。

当第2四半期連結累計期間においては、新規出店を1店舗(宅配寿司業態1店舗)及びフランチャイジーなどからの店舗買取り等による増加1店舗、その他新規子会社化による連結子会社直営店舗146店舗、契約期間満了や不採算に伴い38店舗を閉店いたしました結果、外食直営店舗451店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におきましては、売上高110億74百万円(前年同期比12.2%減)、営業損失21百万円(前年同期は営業利益87百万円)、経常利益46百万円(前年同期比72.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失2億90百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億29百万円)となりました。

なお、前連結会計年度末において、「教育事業」を営んでいた株式会社ジー・アカデミーとNOVAホールディングス株式会社との間で締結していた教育事業(学習塾事業・英会話事業)にかかるフランチャイズ契約の期間満了に伴い、同事業から撤退いたしました。その結果、「外食事業」の単一セグメントになっているため、セグメント別の記載を省略しております。

### (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産額は、235億91百万円となり、前連結会計年度末と比較し、29億24百万円増加いたしました。主な要因は、株式会社オーディンフーズ、株式会社タケモトフーズ及び株式会社壁の穴を連

結の範囲に含めたことによる総資産の増加によるものであります。

負債総額は、144億5百万円となり、前連結会計年度末と比較し、32億74百万円増加いたしました。主な要因は、株式会社オーディンフーズ、株式会社タケモトフーズ及び株式会社壁の穴を連結の範囲に含めたことによる負債総額の増加及び当社における長期借入金（1年以内返済予定含む）が増加したことによるものであります。

純資産額は、91億85百万円となり、前連結会計年度末と比較し、3億49百万円減少いたしました。主な要因は、配当金の支払いによる利益剰余金の減少及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上によるものであります。

### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年5月15日公表の通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,791,880	7,617,667
受取手形及び売掛金	298,329	308,238
商品及び製品	88,727	82,448
仕掛品	1,349	6,974
原材料及び貯蔵品	225,374	317,142
その他	804,642	891,382
貸倒引当金	△11,171	△43,724
流動資産合計	8,199,132	9,180,130
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,666,024	4,331,871
土地	4,193,952	4,281,418
その他(純額)	411,058	533,550
有形固定資産合計	8,271,034	9,146,840
無形固定資産		
のれん	22,388	798,461
その他	164,149	166,008
無形固定資産合計	186,537	964,470
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,173,650	3,376,933
その他	1,291,592	1,372,791
貸倒引当金	△455,227	△449,487
投資その他の資産合計	4,010,015	4,300,237
固定資産合計	12,467,588	14,411,548
資産合計	20,666,720	23,591,678
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	811,799	732,955
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	637,488	917,927
1年内償還予定の社債	708,000	908,000
未払法人税等	60,959	53,120
引当金	51,584	211,016
資産除去債務	19,833	115,737
その他	1,770,895	2,188,144
流動負債合計	4,360,560	5,426,899
固定負債		
社債	1,726,000	2,172,000
新株予約権付社債	1,988,768	1,991,630
長期借入金	1,640,007	3,146,510
関係会社長期借入金	-	15,760
退職給付に係る負債	35,761	95,257
引当金	-	1,558
資産除去債務	823,187	968,933
その他	557,372	587,341
固定負債合計	6,771,096	8,978,991
負債合計	11,131,656	14,405,891

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	8,842,326	8,831,646
利益剰余金	1,377,565	991,374
自己株式	△817,424	△793,595
株主資本合計	9,502,466	9,129,425
その他の包括利益累計額		
その他の包括利益累計額合計	-	-
新株予約権	32,598	35,695
非支配株主持分	-	20,666
純資産合計	9,535,064	9,185,787
負債純資産合計	20,666,720	23,591,678

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	12,614,369	11,074,363
売上原価	4,512,396	3,536,899
売上総利益	8,101,973	7,537,463
販売費及び一般管理費	8,014,427	7,558,748
営業利益又は営業損失(△)	87,545	△21,284
営業外収益		
受取利息	3,198	5,828
受取配当金	490	439
業務受託料	34,065	28,722
受取補償金	70,764	42,925
受取解約金	6,485	4,316
受取保険金	-	10,902
為替差益	-	15,596
その他	29,847	11,959
営業外収益合計	144,852	120,690
営業外費用		
支払利息	15,674	16,779
貸倒引当金繰入額	57	△19,187
支払手数料	30,127	39,211
その他	15,866	16,283
営業外費用合計	61,725	53,086
経常利益	170,672	46,319
特別利益		
固定資産売却益	6,871	3,029
新株予約権戻入益	902	-
特別利益合計	7,774	3,029
特別損失		
固定資産売却損	671	3,891
固定資産除却損	15,354	27,146
店舗閉鎖損失	28,463	49,970
店舗閉鎖損失引当金繰入額	24,922	171,085
減損損失	34,695	97,615
特別損失合計	104,107	349,709
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	74,339	△300,360
法人税、住民税及び事業税	32,337	28,945
法人税等調整額	171,523	△38,785
法人税等合計	203,860	△9,840
四半期純損失(△)	△129,520	△290,520
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△129,520	△290,520



## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
四半期純損失(△)	△129,520	△290,520
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	△129,520	△290,520
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△129,520	△290,520
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	74,339	△300,360
減価償却費	240,775	241,901
のれん償却額	10,248	9,332
賞与引当金の増減額(△は減少)	△17,886	△8,281
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△4,260	△22,853
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△776	△862
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△6,531	161,091
受取利息及び受取配当金	△3,689	△6,267
店舗閉鎖損失	28,463	49,970
減損損失	34,695	97,615
支払利息及び社債利息	15,674	16,779
固定資産除売却損益(△は益)	9,153	28,008
売上債権の増減額(△は増加)	△5,022	89,455
たな卸資産の増減額(△は増加)	△20,318	△48,139
仕入債務の増減額(△は減少)	△94,636	△138,428
未払消費税等の増減額(△は減少)	△24,736	107
未収消費税等の増減額(△は増加)	△10,503	△12,185
その他	258,233	△24,907
小計	483,224	131,975
利息及び配当金の受取額	2,141	2,054
利息の支払額	△12,314	△14,033
法人税等の支払額	△62,775	△61,313
営業活動によるキャッシュ・フロー	410,275	58,683
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△520,320	△646,145
有形固定資産の売却による収入	36,902	6,870
資産除去債務の履行による支出	△26,046	△30,853
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△1,033,838
非連結子会社株式の取得による支出	-	△3,000
関連会社株式の取得による支出	-	△6,500
事業の撤退による収入	-	21,464
敷金及び保証金の差入による支出	△35,099	△1,454
敷金及び保証金の回収による収入	109,371	124,924
貸付けによる支出	△30,000	△10,412
貸付金の回収による収入	476	256
その他	△2,319	△7,881
投資活動によるキャッシュ・フロー	△467,035	△1,586,569
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	700,000	2,120,000
長期借入金の返済による支出	△188,831	△333,058
社債の発行による収入	-	997,431
社債の償還による支出	△354,000	△354,000
リース債務の返済による支出	△1,310	△1,242
自己株式の取得による支出	△20	△3
配当金の支払額	△95,567	△95,522
財務活動によるキャッシュ・フロー	60,270	2,333,604

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△259	5,504
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,251	811,223
現金及び現金同等物の期首残高	6,509,192	6,585,610
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,512,444	7,396,833

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間より、新設した子会社株式会社敦煌及び株式会社オーディンフーズ（当社が同社株式を100%取得）をそれぞれ連結の範囲に含めております。

当第2四半期連結会計期間より、株式会社タケモトフーズ（当社が同社株式を100%取得）及び株式会社壁の穴（当社が同社株式を92.51%取得）をそれぞれ連結の範囲に含めております。

このうち、株式会社オーディンフーズ、株式会社タケモトフーズ及び株式会社壁の穴は、当社の特定子会社に該当いたします。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(重要な後発事象)

株式の取得（完全子会社化）

当社は、平成30年9月19日開催の取締役会において、株式会社湯佐和の株式の取得について決議し、平成30年10月1日付で、株式会社湯佐和が運営する13店舗から3店舗を切り離して新設会社に権利義務を承継させる会社分割（分割型分割）を実施した後に存続する株式会社湯佐和の株式を当社が取得し、同社を完全子会社化いたしました。

(1) 株式取得の理由

当社では、株式会社湯佐和が地域密着型で長年営業していることに加え、三崎漁港と長井漁港の買参権を保有することにより朝どれの魚を店舗にて提供するノウハウ等を保有し、収益力の向上や価格競争力の強化等を実現できる等、様々なシナジーが想定され、両社の更なる成長発展を実現できるものと判断いたしました。

(2) 株式取得の相手の名称

湯澤剛、湯澤麻由美

(3) 買収する会社の名称、事業内容、規模

- ①名称 株式会社湯佐和  
 ②主な事業内容 飲食店の経営（寿司居酒屋及び海鮮居酒屋）  
 ③資本金 10,000千円（会社分割後の資本金は500千円）

(4) 株式取得の時期

平成30年10月1日

(5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持株比率

- ①取得株式数 20,000株  
 ②取得価額 株式譲渡契約の定めにより、当社は秘密保持義務を負っていることから非開示とさせていただきます。  
 ③取得後の持株比率 100.0%

(6) 資金調達方法

自己資金

重要な事業の譲受（取得による企業結合）

当社は、平成30年10月1日付で、株式会社大勝物産のフレンチ事業を譲受けることを決定し、同日付で事業の譲受を実行いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 相手先企業の名称及び取得した事業

相手先企業の名称 株式会社大勝物産

事業の内容 フレンチ事業

(2) 企業結合を行った主な理由

当社グループ内の外食事業における業態構成の最適化を図るため、株式会社大勝物産のフレンチ事業を譲り受けることといたしました。

(3) 企業結合日

平成30年10月1日

(4) 企業結合の法的形式

事業譲受

(5) 企業結合後の名称

株式会社ジー・テイスト

(6) 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価とする事業譲受であるためであります。

2. 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

事業譲渡契約の定めにより、当社は秘密保持義務を負っていることから非開示とさせていただきます。

3. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間又は負ののれん発生益の金額及び発生原因

現時点では確定しておりません。

4. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。